

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立大島高等学校 学校運営連絡協議会 (定時制課程)

(2) 事務局の構成 副校長 教務部主幹

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、進路指導担当 計6名

(4) 協議委員の構成

大島町教育委員会教育文化課長、近隣中学校副校長、青少年委員、民生・児童委員、警察署防犯係、大島マリンサービス株式会社代表取締役 計6名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会 (第1～3回) の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月11日(木) 内部委員6名、協議委員4名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明、意見交換、授業観察

第2回 令和7年11月20日(木) 内部委員6名、協議委員4名

これまでの教育活動に関する報告

学校評価の内容検討、協議、協議委員からの教育活動に対する意見

第3回 令和8年2月3日(火) 内部委員6名、協議委員4名

これまでの教育活動に関する報告

学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議

次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月11日(木) 内部委員6名、評価委員0名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和7年11月20日(木) 内部委員6名、評価委員1名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 令和8年2月3日(火) 内部委員6名、協議委員2名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書(原案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校経営の評価」「学校に対する満足度」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | | | | | | |
|------|-------|-----|-----|-----|-----|------|------|
| ・12月 | 全校生徒 | 対象: | 7人 | 回収: | 7人 | 回収率: | 100% |
| ・12月 | 保護者全員 | 対象: | 7人 | 回収: | 5人 | 回収率: | 71% |
| ・12月 | 地域・住民 | 対象: | 50人 | 回収: | 31人 | 回収率: | 61% |
| ・12月 | 教職員 | 対象: | 8人 | 回収: | 7人 | 回収率: | 88% |

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、広報活動、生活の基本ルール(校則)、ライフ・ワークバランスの推進などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定した。

(4) 評価結果の概要・分析・考察

【生徒】

- 1 生徒の評価は肯定的な回答が半数を占めている。特に、本校独自の特色ある学校への魅力や学校生活の充実、基礎学力の定着、入学してよかったかとい問いへの肯定感が高い。
- 2 授業については、わかりやすいと答えた生徒が7割以上であり、生徒の実態に合わせた授業となっている。
- 3 けじめある学校生活を送れている生徒が多い中で、否定意見があった。
- 4 読書については、まだ楽しめていない生徒もいるため、次年度以降も図書館専門員と協力し、図書の魅力を発信できるよう努めていく。
- 5 今年度は1名の生徒が自由意見に回答することができた。

【保護者】

- 1 今年度は7家庭中5家庭の保護者から回答をいただいた。島外の保護者へも協力をいただけた。今後も学校の取り組みがわかるような体制をとっていく。
- 2 保護者から「定時制に入学してよかった」と全回答いただけたことが今後も続く指導をしていく。
- 3 各設問で回答の多くがおおむね肯定的である。
- 4 学校の生活指導に共感できる、学校のホームページの充実への否定的な意見があった。定時制の生徒数も少ないため、個人を特定できないような形でホームページの更新に工夫していることを理解していただきたい。
- 5 多くの生徒が読書を楽しんでいる一方家庭へは及んでいないことが伺える。

【教員】

- 1 おおむね肯定的な回答である一方、生徒・保護者との乖離がなくなるよう、評価を受け今後も全員で学校生活の改善に努めていく。
- 2 基礎学力が身につけているについては、否定的な回答もあり、授業・学習の補償が必要である。
- 3 閉庁日（5日以上）を全都立高校で設定し、本校でも年休取得促進を図っており、全教員が年休取得率も高い。しかし、否定的な回答もあるため、ワークライフバランスの実現を目指し、風通しの良い職場となるよう努めていく。
- 4 学年進行に伴い、生徒の授業や行事への参加、コミュニケーション能力が上がっていることへの自由意見が多かった。

【地域】

- 1 定時制の存在や島外からの生徒、島内で働いていることについては、概ね認知されている。
- 2 清掃・夜間パトロールの認知度は、まだまだ低い状況である。今後も継続すると同時に、島民の方にも知っていただけるよう発信していく。
- 3 定時制のポスターは多くの方の目に届いているようです。一方、ホームページについては、まだまだ閲覧されていないことがわかった。ポスターにQRコードを示し、一層の情報発信に努めていく。
- 4 三修制の認知度もまだ低いようです。現在は三修制を実施しない都立夜間制高校が増えているのでアピールをしていく。
- 5 毎日の給食をホームページで更新していることで、認知度は高まった。今後もおいしい給食で生徒の心の栄養になる時間としていく。

【全体】

今年度は、Microsoft Forms での4年目の実施となりました。学校評価アンケートの依頼と一緒に、万が一回答できない場合は紙面での回答でもよいことを伝えたからか、全回答はForms である。今後の案内は、Forms のみで良いと考える。今年度は、定時制への転学や編入学、入試への問合せの電話はなかったが、公開授業に参加した中学生もいるため、継続して広報活動および、生徒や保護者から愛される学校づくりを継続していく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校からは、生徒の様子や学校が取り組んでいること等を委員に発信していった。
- ・委員からは、地域と連携した取り組み、大島町が行っている事業等、警察で取り扱う近年の事件等についての注意喚起等の伝達等があった。地域と連携していくことの重要性を再確認することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・定時制課程は、少人数であるが島民にとっては、必要不可欠な学校であるという認識である。
- ・公開講座や地域への学校開放等学校の役割がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・清掃活動や夜間パトロール等、地域との連携事業を継続的に実施する。
- ・公開授業等地域への広報活動を継続させる。

(2) 学習指導

- ・進路に合わせた個別指導を組織的、継続的に実施する。
- ・相互授業の見学や情報交換、研修などにより授業力向上を図る。

(3) 特別活動

- ・大島の自然を体感し、地域との連携を図り、地域貢献活動を継続実施する。
- ・生徒の情緒を育む活動を増やしていく。

(4) 生活指導

- ・セーフティ教室、避難訓練、食育講座により、心と体の健康や安全教育、生命尊重の教育を推進する。

(5) 進路指導

- ・卒業後の進路実現に向けたキャリア教育の充実、進路指導を組織的に実施する。
- ・進路希望に応じた面接指導や補習・講習・小論文指導等を行い、進路実現を図る

(6) 健康・安全

- ・スクールカウンセラーや専門医派遣事業を活用し、教育相談担当教員、特別支援教育コーディネーター、担任など、それぞれの立場や役割を分担して組織的な相談体制を充実させる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	2					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】 なし